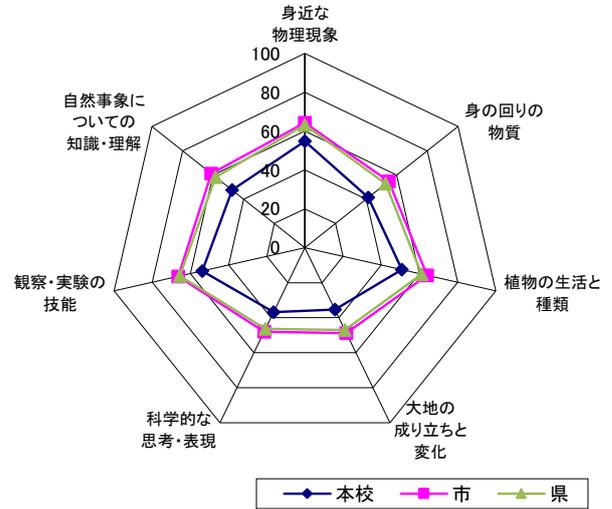


宇都宮市立鬼怒中学校 第2学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	54.8	64.3	63.2
	身の回りの物質	41.4	54.8	52.8
	植物の生活と種類	50.8	64.0	61.1
	大地の成り立ちと変化	35.4	48.8	47.0
観点	科学的な思考・表現	36.8	48.0	46.4
	観察・実験の技能	53.8	66.4	65.6
	自然事象についての知識・理解	47.6	61.1	58.3



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	○光と音に関する設問については、正答率が61.6%となっており、他の設問よりも正答率が高くなっている。 ●力と圧力に関する設問についての正答率が34.2%となっている。特に水圧に関する問題では、予想を立てることや、理由を考えることについて苦手としている。	・力と圧力は、目に見ることができず、生徒が理解することが難しい単元である。実験の際に、予想を立てさせること、予想の根拠を説明させることなど、興味や関心を高め、身近な現象と結びつけることができるようにする。
身の回りの物質	●特に水溶液に関する設問は、前回の正答率と比べ、14.8パーセント下回っていた。正答率が30%を下回っており、多くの生徒の学力が定着していない状況である。 ●質量パーセント濃度の数値を求める問題を苦手としており、敬遠する傾向がある。	・計算などでは段階的に解くようなワークシートを宿題や授業で行い解き方が理解できるようにする。
植物の生活と種類	●特に顕微鏡の操作の順序では、A層～D層の差が、71.2ポイントとなっており、差が顕著に見られた。県や市と比較しても、20%近く差が見られている。	・顕微鏡の操作の順序に関しては、生物分野ではよく使用するが、化学分野や物理分野になると全く使用しなくなってしまう。特に1年生の4月に学習をしていたことを考えると、忘れてしまっている生徒が多くみられ、顕微鏡の操作の順序を定期的に確認し、身につけさせる。
大地の成り立ちと変化	○初期微動継続時間をグラフからの読み取りの問題では、43.9ポイントで、県の平均値よりも5.8ポイント高くなっている。 ●初期微動に続いて起こるゆれの名称や、地層ができた年代を推測する化石の名称について問われる問題に関しての正答率が県の平均より20ポイント以上低くなっている。	・地震や火山の授業では、ICTを活用し、教育コンテンツを利用して理解を促す。 ・化石や地震に関する基本的な用語に関して、生徒が理解していない。授業での小テストを行い、1年次の学習内容の確認を行う。